

平成28年度 農高・農大就農促進対策事業(農大就農促進対策助成)

事業主体名 鹿児島県立農業大学校

1 目的

本校の入学者は、非農家出身の割合が増加する中、経営基盤の整っていない学生の間では、専門的な知識・技術を生かせる場としての農業法人への雇用就農に対する関心が高まっている。

そこで、就農・就業相談会等への参加を通じ、農業法人の理解促進を図り、非農家出身の学生を主とした雇用就農への意欲喚起及び就農促進を図る。また、先進的な農業経営を行っている農家や農業法人の取り組みについて、経営者の講話や現地視察を通じて、理解促進を図り、就農対策の一助とする。



かごしま就農・就業相談会

2 実施状況

(1) かごしま就農・就業相談会での相談活動

1年生にとって初の本格的な就職活動であり、進路選択に当たっての有効な情報収集活動となった。

(2) 先進農家等による講話

ア 平松昭弘氏(農学部対象)

果樹農家として、経営発展、地域振興のため、積極的に情報収集し、仲間と協力して、常に課題解決に取り組み、さらに、規模拡大や新品目への挑戦、家族経営協定締結などの体験談は、本県の農業・農村を担う学生にとって、有意義な内容であった。



平松昭弘氏の講話

イ 迫 竜一氏(畜産学部対象)

(株)ECSファームを設立し、高泌乳生産に取り組むとともに、青年農業者として地域農業を先導している。講演は、就農の経緯や経営における節目の決断、さらには、結婚を含む家族間や子育てなど、ユーモアを交えながらの自然体の話に引き込まれた。迫氏のこれまでの経験や現在の取り組みは学生の今後の就農への目標達成のために参考となった。



迫 竜一氏の講話

(3) 先進農家等の視察研修

就農を間近に控え、先進事例に直に触れることで意欲向上の醸成を図るために、九州一の直売所「道の駅むなかた」、西日本一のいちご産地福岡県のいちご農家、日本一のトマト産地のトマト農家、熊本県立農大の視察研修を行った。

今回の研修では、特に農家の取り組み意欲と収益性の高さが学生には相当な刺激を与えてくれたようで、「あんなふうになりたい」と口々に言っていた。今後もこのような研修を行いたい。



熊本県玉名市のトマト農家視察

3 今後の課題・取り組み

今後も引き続き、本県の農業を担う人材の育成・確保を図るために、本事業を活用し、就農促進のための取り組みの充実・強化を図る。